

会長 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 06-6833-9227
事務局 〒577-0054 東大阪市高井田元町1-14-2 岡本 至弘 06-6788-2796
編集室 〒586-0039 河内長野市楠ヶ丘11-18 中川 良三 0721-65-0348
HomePage担当 〒577-0054 大阪市住之江区南港中3-3-31-520 坪井 仁志 06-6613-2836

令和5年11月(2023年) No.695

第27回大阪アマチュア映像祭

「入場制限なし」だったが

コロナ禍以前の入場者数の半減

公開映写会と言え、200名程度の入場者が当たり前だったが、コロナ禍の為に入場制限とか申し込み制にしたりとか、来たい人までお断りをする事態になったことが、フリーになった今回の映像祭にも影響している様だ。

もともと、芳名簿の人数が、以前650名あったのが、現在300名を切っている、ご案内する方が減っているという根本的な事情がある。来場者の多くが高齢者という事から、健康上の理由で次第に疎遠になっていくのも仕方がないかも知れない。

このままでは、来年の「日本を縦断する発表会」や「OMC映像フェスティバル」そして、この「大阪アマチュア映像祭」の観客数が少しづつ減少化して行くのが予見される。

いかにして新規来場者を増やすか、芳名簿の登録人数を増やすか、という切実な課題は、会員一人一人の力に頼る外ない。

一方、開催が日・祝祭日が良いのか、ウィークデーの方が良いのか、という問題、日本縦断と大阪アマは大阪市立図書館の会場で決まりだが、OMCは再考の要がある。今回の入場者は106名、内29名が新規であったが、これからは150名程度の収容会場で充分と思われる。経費削減の意味もあって、「懐かしの映像作品を楽しむ会」を開催した布施駅前前の会場でやってもいいかなと考える。私たちの映像発表会を楽しみにして来て下さる熱心な方は、場所がどこであれ、来て下さっていることを実感している。後は地元に近い方をどれだけ新規に呼び込めるか、岡本副会長の手腕に期待すること大である。もともと、来場者には“来てよかった”と喜んで頂けるような作品であることが私たちの責務であることは論を待たない。来年へ向け各自、自信作を作って下さい。個別に大いに支援します。(会長)



11月例会ご案内

- 第2例会：16日13時より。課題コン作品公開審査、後一般作品上映。
- 通常例会：25日13時開場、13時30分開始、楽しいひと時をどうぞ。
・担当世話役は早めにお越しください

課題コン「和」は出来ましたか

今年の課題コンは「和」で11月第2例会が提出日です。とうとう今月の、その日がやってきました。どんな「和」を皆さん作られたかが楽しみです。

いつも発表会に来ていた方からこんな葉書が届きました

拝啓 大阪アマチュア映像祭のご案内を頂きました。私と家内は大変長い間ご案内頂き、いつもご案内頂いた時は、喜々として出掛けて行きました。

舞子ビデオの本田さんと交友関係がありその縁で大阪アマチュア映像の作品を見せて頂いておりました。

さて、私も家内も年寄りになり家内は介護保険を受け施設に通うようになりました。

特に歩行が不自由になり残念ながら大阪まで行けない状態になりました。合原会長様には一度お会いしてお礼を申し上げたかったですが残念です。大変失礼ですがハガキにてお礼とします。

兵庫県神戸市須磨区 吉田 健
和子

拝復、ご丁寧なるお便り有難う御座いました。長い間映写会にお越し頂き感謝いたします。どうかお身体お大事になさってください。この先、もしお身体の状態が許されるときが来れば、どうかご連絡下さい。毎年3回は映写会をやっていますので、その時は又、ご案内を差し上げます。

敬具

大阪アマチュア映像連盟

会長 合原一夫

■ 編集の豆知識「七五三」の原則

昔、稲垣浩という映画監督が居ました。その稲垣さんがカットの長さについて語っていた有名な言葉があります。

カットの長さは「七五三」と伝えたそうです。これは35ミリ映画のフィート数で、時間に直すと5秒、3.5秒、2秒となり、この判断の基準は、そのカットの持つ情報量から来ているとの事。

一瞬見ただけでわかるものは2秒、もう少し見せたい場合は3.5秒、カットの雰囲気迄見せるには5秒、と言う事だそうです。編集の基準として考えてみて下さい。

例えば、花のアップ（2秒）、その花が咲いているお花畑の近景（3.5秒）、全体を見渡すようなロングは（5秒）と、テンポよくつなぐという事でしょう。実際にやってみて覚えることが大切ですが、OMC会員諸氏は、当然おのずとやっていたらっしゃると思いますが、念のため、改めて「七五三」の原則を認識しておきましょう。

■ 編集の豆知識「3つの言葉」

作品の構成を考える時、3つのキーワード「おや?」「まあ!」「なるほど」という言葉を考えてやってみて下さい。別の言い方をすると「興味」「驚き」「納得」という順の構成の一例です。

ファーストシーンで興味を引き、作品に引き込み、順次お話を展開してゆき、ラストでなるほどと納得させて終わらす。ラストで納得以上に「感動」でも与えれば、最高です。編集する前に何を伝えたいか、その為にどう順序良く話を進めるか、構成について気を遣ってほしいと思います。

■ 新入会員のご紹介

東大阪市花園西町にお住いで岡本副会長のお知合いの方です。

道下敏行さんよろしくお願ひ致します。

■ 関 剛さん退会

この程メールで退会の旨、連絡があったとのこと。残念ですが、長い間ご苦勞様でした。

10月 通常例会レポート

昼間と夜の気温差の大きいこの頃、着るものに気を使うが、風邪をひかないように注意しましょう。今月も例会を楽しみにしていた会員諸氏が集まりました。新入会者の道下さんが紹介されご挨拶されました。

- **運営担当**：司会 岡本、書記 高瀬、YouTube 関係 江村、映写 中川、上総、メモリー記録 江村、受付・照明 森下、宮崎の各氏
- **出席者**：岩井、植村、江村、大久保、岡本、上総、合原、高瀬、高田、坪井、中川、中村、宮崎、森下、道下（見学）の15氏

上映作品（今月の書記は高瀬）

1. だんじり安全祈願 BD

中川良三 9分58秒

（作者コメント）

今年の秋祭りはコロナも落ち着き、久しぶりに地域の皆様の意気込みが感じられます。今回はだんじりの安全祈願祭を記録として編集してみました。本来は40分近くありますが、10分にまとめています。

（書記コメント）

地元、河内長野市三日市地区の秋祭りのだんじり祈願を順を追って丁寧に撮られ、撮影場所を変える工夫などもあって、地元の人々の意気込みが感じられる作品になっている。ただ貴重な記録として残されるならやはり普通のカメラで。単調な神事を変化のある構図などでユニークさを出すなら360°撮影のカメラの使用も面白い。作者は記録としての制作に重点を置き、さらにユニークさも狙われたのかも知れないが、その結果どちらともつかずになってしまったような印象です。大きく湾曲した鳥居とかの映像は不自然と見る人もあれば、意表を突く構図で面白いと感じる人もあって、これらも賛否が分かれる。



2. 十人十彩 見参 BD

江村一郎 7分10秒

（作者コメント）

4年ぶりの通常開催となった高知の「第70回よさこい祭り」。タイトルの「十人十彩 見参」はチームの先頭（地方車）から楽曲と共に発せられる「十人十彩 只今見参」の掛け声からとりました。いつもなら幾つかのチームを合わせて編集するが、今回は十人十彩だけなので単純明快な分かりやすい作品となっています。

（書記コメント）

十人十彩「じゅうにんといろ」と読み、チームの先頭ということで、女踊りのテーマは「凛とした優しさ」（ネット情報）だそうです。まさに作品はそうした一糸乱れぬ踊りの様子を巧みなカメラワークで表現されている。ただ江村さんの「よさこい」作品という、どうしてもアップや大胆な構図、躍動感あふれる踊り手の映像を期待してしまいましたが、今回は単純明快に分かりやすくということで、そうした点を極力抑えた編集をされている。そのため、これまでの感覚で観ると、ここからかなと思ったところで終わってしまったような感じがします。ラスト近くに少しありますが…。



3. 神戸ティークルーズ BD

坪井仁志

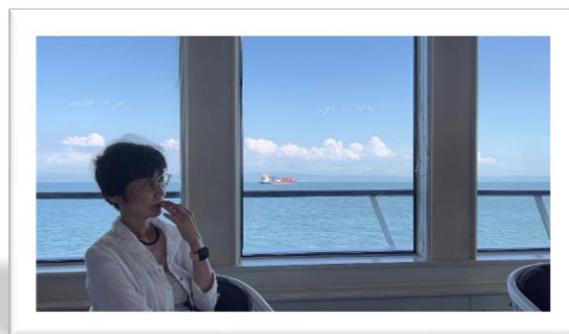
8分

(作者コメント)

7月23日に行って来ました。8月例会に持ってくる予定でしたが、10月になって季節がずれてしまいました…。高田さんの地中海クルーズには遠く及びませんが、ご笑覧ください。

(書記コメント)

神戸ハーバーランドから出航するレストランクルーズ船「コンチェルト」に乗船されての撮影。白い船体が美しく青い空に映えている。船内や港の情景を安定したカメラワークで描かれている。聞けば、スマホで撮影されたとか。ビデオカメラと遜色のない、むしろ上回るような素晴らしい映像です。そこで映像のデータを見てみると、フレームレートは他のビデオ作品（テレシネのDVD作品を除く）と同様1920×1080で変わらないのですが、ビットレートが30732kbps（キロビットパーセコンド）で、ビデオ作品の25549kbps～25555kbpsをいずれも上回っています。ビットレートは数字が大きいほど高画質です。なので、数字だけでみると、この作品がほかのより1ランク上の高画質といえます。しかし同じBDなのに、どうしてこれだけ違いがあるのか分かりません。スマホ故なのか、それともBD書き出し時の設定でそうなるのでしょうか？



4. 芭蕉のふるさと

BD

岡本至弘

14分

(作者コメント)

1981年制作のフィルム作品をテレシネしたものです。まだOMCに入会していない頃の初めて作った作品です。

(書記コメント)

俳聖、松尾芭蕉のふるさと、伊賀上野市を訪れ、芭蕉の生涯を詳しく調べて描かれた、昭和56年、今から42年前に制作されたフィルム作品の労作。カメラを持って初めの頃は、どうしてもパンニングやズームを使い勝ち。この作品も本格的に作られた初期の作品とかで、特にズームバックとパンニングが目立ちます。なお使用されているフィルムはスーパー8（コダック）と思われる。7番目の「祭だ 祭だ」は同時期のシングル8（富士フィルム）だが、それに比べると、色褪せや変色がほとんど見られない。



(8ミリフィルムについて)

当時の8ミリフィルム事情は、主に米コダック社のスーパー8と富士フィルムのシングル8が市場を2分していました。フィルム幅は同じ8ミリですが、両者のフィルムカセットの形状が違うので、カメラは共有できません。また両方のカメラを持っていても、フィルムの材質が異なり、ベースの厚さが違うので、両方を組み合わせてつなぐと、映写した時にどちらかのピントがボケてしまうので、混ぜ合わせて使うこともできません。つまり両者はまったく互換性がなく、世界的にはコダック社が世界規格で大半を占めていたようですが、日本ではスーパー派とシングル派に別れていました。

5. 京の紅葉「白龍園」

BD

高田幸夫

8分

(作者コメント)

京都二ノ瀬にある白龍園を訪ねました。紅葉や苔がとてもきれいでした。作品の中に俳句を入れてみました。

(書記コメント)



京都左京区の鞍馬の手前、二ノ瀬にある白龍園。1962年、昭和37年に子供服メーカー青野株式会社の創業者、故青野正一氏が安養寺山麓に拓いた庭園。社員たちが手入れしているという話や、名称、由来は知っていたが、一般公開される時期や人数制限があつて、訪れることなく、庭園の内部を見たのはこの作品が初めて。庭園の様子を隈なく詳しく撮影されており、興味深く拝見した。自作の俳句も風景や雰囲気にもマッチしている。苔の緑も美しいが、紅葉はちょっと時期が早いのでしょうか、全体の色づきが今ひとつなのが惜しい。

6. パスポート初旅 **DVD**
合原一夫 **14分5秒**
(作者コメント)

初めて妻と共に海外旅行をしたいとパスポートを取得。初旅はオーストラリア北部。旅行者はあまり北の方へは行かないので、珍しい動物や自然、遺跡等充分満足した初めての海外旅行でした。

(書記コメント)

初めてパスポートを手にした海外旅行となると、どうしても無難な所を選びがちだが、ご夫婦が選ばれたのは旅行者のあまり行かないオーストラリア北部。そこはスケールの大きい大自然が広がり、日常生活を忘れて清々しい気分には浸れたと語られる、その雰囲気が画面にあふれている。大自然に生きる動植物との触れ合いや、カカドゥ国立公園のイエローリバーの朝靄に煙る風景などは秀逸、単に旅行映画にとどまらない作品に仕上げられている。



7. 祭だ 祭だー1980年だんじり祭り **DVD**
高瀬辰雄 **7分20秒**
(作者コメント)

43年前の1980年（昭和55年）の岸和田春木地区のだんじり祭りです。8ミリフィルムで撮影、テレシネした作品。撮影した後、フィルムを見ると、だんじりがほとんど写っていないので、タイトルは「祭だ 祭だ」にしました。



8. 堺まつり **BD**
上総秀隆 **9分24秒**
(作者コメント)

堺の中心部を東西に走る大小路（おおしょうじ）で繰り広げられた第50回堺まつり。市内各地から集まったふとん太鼓。ベトナム領事館前で披露されるダンス、自転車タクシーなどの行進、その他もろもろ。

(書記コメント)

2023年10月14日（前夜祭）15日の堺まつりのネット情報をみると、今年50周年を迎え、初めての参加型の「巨大ストリートフェス」と謳われ、堺のメインストリート大小路などを舞台にさまざまなイベントが展開され、38万人の来場を見込んでいる、となっている。作品ではストリートダンス、自転車タクシー、鉄砲隊の実演、楽器演奏など多彩な催しが描かれている。しかし、あまりに広範囲で、催しやパフォーマンスなどが多



く、ポイントが絞りにくかったような印象を受けます。ふとん太鼓が前夜祭で雨の中、豪快な動きを見せていたのが印象的です。

9. 愁 竹田城跡 竹田城下の秋祭り BD

中村幸子

5分45秒

(作者コメント)

今回の作品は今迄の様なドキュメントから脱出した詩的要素を含んだポエム作品です。タイトルの通り「愁 竹田城跡」そのもので哀愁の城跡をイメージし、幾多の戦火を潜った石垣をメインに夕景、真夜中、朝霧の曲輪等を作品にしています。どの様な作品も絵が主役なので、ナレーションはオープニングの歴史概要のみ。テロップも極力避け、テロップの代わりに短歌を載せて説明し、作者名も、絵の邪魔にならぬ様に目立たないラストのみに短く入れてます。

静の城跡に比べ動の祭り風景を短く入れてます。昼間は神輿を担ぐ若い衆の待ち切れぬ会話の一コマを思い出し短歌と連動させました。

(書記コメント)

竹田城は1443年、山名持豊によって築城された日本有数の山城。朝霧にかすむ城跡のトップシーンから、残る石垣を情感をもって描写されている。折しも秋祭りの日とあって、駅前に移り、祭りのシーンへと進む。そして夜の祭りの山車(だし)を宿の二階から撮られており、見応えがあるシーンが続く。ラストは夕映えの城跡に戻り、短歌で情感を盛り上げ、城下町の祭りの灯で締めくくられている。ただ昼間の祭りのシーンは神輿の巡行は後ろ姿でほんのわずか、休憩している若者の映像は何を表現されようとしているのかわかりづらいです。タイトルはメイン、サブと、詰め込んだような感じがします。



二次会の楽しみ

通常例会が夜から昼間変わったので、例会後のゆとり時間がたっぷりとれるようになった。そこで二次会として喫茶店組と居酒屋組とに分かれるのだが、土曜日の夕方の喫茶店はどこも満席で場所が取りにくい、といった悩みが出てきた。夜の例会の二次会は9時頃に喫茶店に到着するので、残り時間は1時間しかないが、席も空いており、席探しに苦労することも無かった。このところ夕方の難波の地下街は旅行者も含めコロナ禍以前より多い位の人混みようである。

一方、居酒屋は、4時半頃と言えば夜の混雑前なので、むしろゆったりと空いていて席に困ることが無い様だ。OMCメンバーが使っている「百番」は、OMC歴代の幹事が使っていた何十年？の実績があるという。亡くなられた吉岡さんを始め、有村さん、華岡さん等、当番幹事をされていたという。今は中川さんが引き継いで世話をしている。

百番に集まるメンバーは少ない時で4名、多い時で8名を超す時がある。会費は毎回2千円と決まっています。中ジョッキ一杯とお湯割り焼酎飲み放題、それに食べきれないほどの料理が、おかみさんのお任せで出るのでお腹一杯、晩飯はいらないので私の様な独り者には有難い。

話題もお互い本音が出て例会では得られなかった作品の講評や突っ込みが出たりして参考になる。言いたいことを気軽にいえることがこの二次会の良さで、私もこのところ喫茶組から居酒屋組に場所を変えて楽しんでいる。最後のデザートも良い(合原)